

令和6年度 第1回 東京都教員育成協議会 会議要旨

- 1 日 時 令和6年8月26日(月) 午後3時から午後5時まで
- 2 会 場 都庁第二本庁舎10階210・211会議室及びオンライン開催
- 3 出席者 瀧沢委員(会長)、山田委員(副会長)、佐々木委員、吉川委員、三浦委員、安間委員、大井委員、前田委員、田中委員、並木委員、岩野委員、吉村委員、栗原委員

4 議事内容

(1) 協議

① 「東京都教員研修計画」について

本計画は、昨年2月に改定された「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」の内容を踏まえ、教員の人材育成の全体像を示すとともに、職層別に求められる役割や能力、研修内容等を定めたものである。次年度の策定に向けた意見を伺いたい。

- ・研修受講の履歴には、自主研修として受講した研修も掲載できるとよい。また、若手教員育成研修のシラバスとも連携できるとよい。
- ・大学では、教員の研修の受講履歴などを蓄積するプラットフォームを作成し、教員が活用できるようにしている事例もある。教員研修でも活用いただきたい。

② 大学と教育委員会等との連携の充実について

都教育委員会では、大学等への指導主事派遣事業や「東京都教職課程学生ハンドブック」の作成等を行っている。今後、さらに大学との連携を充実させるために、意見を伺いたい。

- ・昨年度実施した学生と指導主事等との懇談は、学生にとって教育現場の話を聞くことができる良い機会となった。今後、取組を広げていただきたい。
- ・本ハンドブック等が、学生からアクセスしやすくなると、さらに活用が広がるので、各大学が学生向けの情報をどのように取り扱っているかを確認し、連携すると良いのではないかと。
- ・区市町村立学校が、近隣の大学と独自の連携をしている事例もある。

(2) 情報交換

① 教員採用選考の国の要請を踏まえた大学の課題等について

- ・教員採用選考の日程が早まる場合、教育実習の期間や大学のカリキュラム等の見直しが必要になる。
- ・学校では、大学から教育実習の依頼を受け、学校行事等を鑑みながら、受け入れの調整をしている。教員の若年化により、実習生を指導するための経験が不足している教員が増えるなど、受け入れる側の指導体制にも課題がある。

② 教員の資質向上について

- ・東京都教職員研修センターでは、研修の充実と研究機能の強化に取り組んでいる。研修の充実では、教員を対象とした研修を企画運営するほかに、自己啓発支援として、HPに「授業づくりの基礎」や「児童・生徒理解」などの研修動画を掲載している。また、研究機能の強化では、指導主事による教育課題研究や、教科ごとのカリキュラム開発研究に関する討議などを行っている。
- ・オンラインによる研修や自主的に参加できる研修の機会は多くあり、教員の学ぶ意識も高まっていると感じている。指標に基づき、本人の職層などに応じて、計画的に研修を受講することが必要である。
- ・学校では、研修センターの情報を活用して、授業改善を進めている。今後も、受講した教員の感想を反映し、必要な情報を発信していただきたい。また、若手の教員からは、「良い授業がしたい」という声が多く聞かれる。
- ・特別支援教育においては、児童・生徒の実態を把握する力が求められている。教員の専門性を高めるためには、都教育委員会と連携した取組の充実が必要だと感じる。